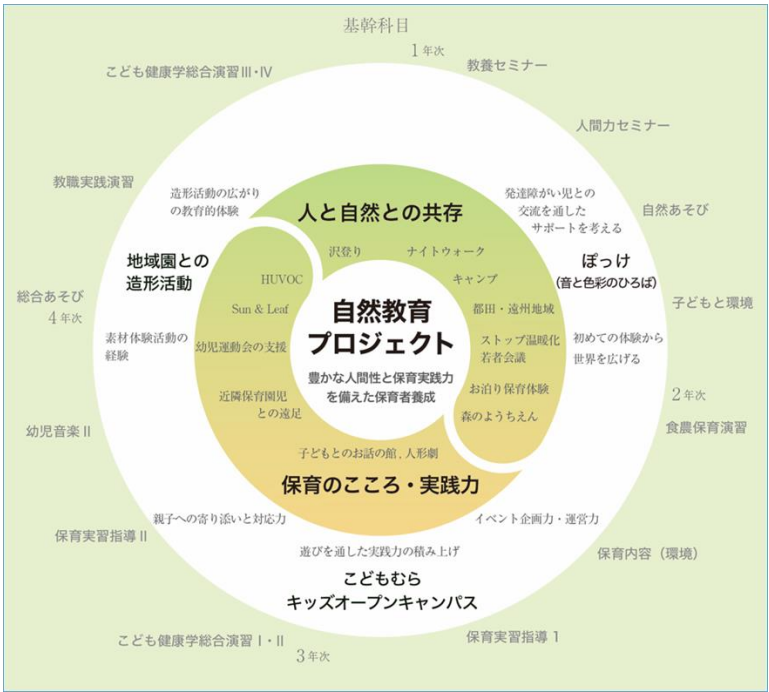


事業の概要

本事業は、こども健康学科の新たな教育の特色として、自然教育を教育の柱とした**豊かな人間性と保育実践力を備えた専門職の育成**を目指すプロジェクトである。このプロジェクトでは、1年生から4年間かけて全学共通科目や専門教育科目での学びを、都田の自然のなかで子どもたちや地域の方々との活動と連動させながら、各学年で段階的に人や自然を慈しみ守る心と保育実践力を高めていく教育を体系的に行う。

事業実績の概要



本プロジェクトとカリキュラムとの関連図

これから目指すこと

地域の親子を招いたイベントや地域の方々との共同活動を学年を超えて体験したりしながら、仲間とともに自然と人との共生のあり方や子どもたちの五感を使った遊びの提案などを考えられるような環境をさらに整えていこうと考えている。

令和5年度：自然教育を軸として教育体制の整備・補完を行った。

入学初年度に自然教育として森林教育やお泊り保育体験、現役保育士による教育指導など行い、自然の持つ力を体験した。学生たちは、仲間と助け合うことの大切さや自然への新たな気づき、自然とのかかわり方の意味などを考えることができた。こうした自然を通して実体験を重ねることは、子どもたちに自然をふまえた遊びを通して心や体を育む保育者になる者として、貴重な教育の機会になると考えている。

令和6年度：自然を用いた遊びの提案を経験し、保育のこころを考える。

造形表現で学習したことをふまえ、親子教室ポッケに参加している親子に遊びの提案を行う。初対面の1～2歳児に初めて触れ合い、学生は子どもがかわいいという気持ちと、遊びの提案の難しさを感じてる。また、学生たちは子どもたちとのかかわりを通して、自然の色や形、素材などの概念の幅を広げて考えることができています。

